

## 平成18年度 第2回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 平成18年9月19日(火) 15:00～17:00

場 所 鳥取県立県民文化会館 第3会議室

出席者 片山 善博, 長田 昭夫, 長谷川善一, 古澤 巖, 吉岡 秀樹,  
能勢学長, 高木理事, 安藤理事, 石部理事, 小林副学長の各委員

欠席者 永瀬 正治 委員

[陪席者] 重政理事, 岩崎理事, 林監事, 和泉副学長, 永山副学長,  
岡田地域学部長, 井藤医学部長, 中島農学部副学部長

### 報 告

#### 1. 平成17年度に係る業務の実績に関するヒアリング報告について

小林副学長から, 文部科学省に提出した平成17年度に係る業務の実績報告について, 8月7日に法人評価委員会のヒアリングが行われ, その評価結果の原案が資料1のとおり示され, 「特筆すべき進捗状況にある。」「順調に進んでいる。」など, よい評価を得ている旨説明があった。

#### 2. 平成19年度概算要求について

高木理事から, 本学が概算要求事項として文部科学省に要求していた事項について, 資料2のとおり, 財務省への要求案として提出された旨の報告があった。

#### 3. 平成17年度財務諸表の承認について

高木理事から, 資料3に基づき, 文部科学省に承認申請を行っていた平成17年度財務諸表が承認(当期総利益の処分を除く)された旨の報告があった。

### 協議事項

#### 1. 鳥取大学の運営について

学長から, 本学の運営に学外委員の意見等を活かしていきたい旨発言があり, 本学の教育基本方針について重政理事から, 研究と国際交流について岩崎理事から概要説明があった後, 以下のような質疑応答があった。

(○印が学外委員の意見・質問, △印が本学の回答)

○ 「人間力」を医師養成に置き換えた時にどう活かされるのか。また, 「医の倫理」について特別なことをされているのか。

△ 人間力については, 学部教育の4年間或いは6年間の授業の中で卒業までに身につけさせる。また, 倫理については, それぞれの専門において教育を行うという基本的な考えを持っている。

○ 大学への憧れが薄れているようであり, 鳥取大学としての「魅力」, 「目玉」がいるのではないか。

- △ 今の学生は全国的な視点で就職のことを考えている。そういった学生に地元に残ってもらうためには、経営改善、経営基盤を確立することが大事であると同時に、大学病院は特定機能病院としての機能を充分発揮して、地域の医療連携が実施できれば、地域の魅力というか、その質も増してくると思う。
- 本学としても、医師からも患者さんからも良いと思われるように、経営改善に努力している。
- △ 医師の養成については、地域枠を設け鳥取県から5名の入学者を確保している。山陰地方の医療を守るためにいい人材に育てたい。また、看護師についても、平成20年度から20名程度の地域枠を設定したいと考えている。
- 兵庫県から、兵庫県北部の地域医療確保のため、寄付講座開設の申し入れがあり、検討を行っている。
- △ 臨床心理士コースについても、県の要望に応じて平成20年度から保健学科の中に設置することで検討している。
- 自分で自信が持てる医師養成が重要であり、医者として誇りが持てるように、大学側からもどんどんマスコミを通じて社会に広くPRして欲しい。
- 国立大学を見ていると、格差がでてきているというか、序列化されてきている。今は、大学の個性とか、特性・地域性が薄れてきて、どこでもよいから自分の学力で入られる所に入るようになっている。地域枠で入学した学生に会ったが、地域の医療に貢献したいという気持ちが伝わってきて良かった。地域枠の充実も地域防衛の一つになる気がした。兵庫県の件については、知事同士でも話し合った。行政では力を入れている。
- 教員（研究者）の評価はどうなっていますか。
- △ 18年度から本格実施を行うこととしています。成績が優秀な者については、教育功績賞等の特典を与えることにしています。
- △ 基本的には、ポジティブ評価で、ネガティブ評価については部局長が面談・指導を行うシステムを構築しています。
- 教育研究理念を学内に浸透させることは結構難しいことだと思いますが、教職員の一人一人が理解できるように、努力して欲しい。
- また、学生へのPRも大切である。
- 鳥取大学が養成する学生像を、高等学校の先生なり、保護者の方なり地域の皆さんに浸透させる努力をして欲しい。（紙に書いただけでは浸透しないので、よく考えて欲しい。）
- △ 本学としては、学生の充足率を上げていかないといけないので、大学での満足度を上げる方策として、教育環境の改善、キャンパス環境の見直し、不本意入学者への対応などに努力していきたい。
- 大学自体の「アイデンティティ」が必須であり、1・2年生の教育に勝負がかかっている。高等学校の先生、受験生の保護者から、「あの大学にいけば任せられる。」というような評価が得られるよう、力を入れて欲しい。

- 工学部の退学者が多いのはどうしてか。学生へのケアができていないのではないか。学生の満足度を上げるためにうまく予算を使えば良いと思う。  
鳥取大学は、規模としては全国の国立大学で中位であるが、昨年度の収益はトップクラスになっている。経費を有効に使って大学の特徴を出して欲しい。
- 大学のミッションを的確に共有することが大切。ミッションの策定にあたっては、できるだけ多くの職員に検討して頂き、調整することが必要である。  
手段と目的を逆転させないこと。
- △ 学生に選んで頂いて大学が存在するわけで、学生及び保護者の方の満足度を上げるため、魅力ある大学として存在意義を高めていきたい。

## 2. その他

学長から、第3回経営協議会は11月第3週に開催したい旨の発言があった。

以上